WFPメールニュース（拡大版）

2007/11/9

報告：シーランWFP事務局長初訪日

2007年4月にWFPの事務局長に就任したジョゼット・シーラン事務局長がこの10月、事務局長として初訪日。政府関係者などと意見交換を行ったほか、10月10日に国連大学ビルで開かれた講演会「なぜ今飢餓問題？民間協力への提言」で、国連WFP協会の丹羽宇一郎会長とともに講演を行いました。シーラン事務局長はWFPが現在直面している課題を挙げた上で、今後の活動方針について説明し、一方、丹羽会長は穀物や原油の価格高騰、日米のNPOセクターの違いなどに触れ、日本における民間からの更なる支援を呼びかけました。以下シーラン事務局長の講演の概要です。

飢餓人口の増加

飢餓人口の割合は1960年代の37%から近年は17%にまで減少しました。しかし世界の人口増加に伴い、飢餓人口の絶対数は増加しています。現在8億5000万人が慢性的な栄養不足の状態にあり、さらに毎年約400万人ずつ増え続けています。2050年までに世界の人口は91億人に達すると見られていますが、それに伴い飢餓人口もさらに増加すると予測されています。

満席となった講演会会場

気候変動

近年、気候変動の影響により大洪水や大干ばつが頻発し、大きな課題となってきています。最近、アフリカ、アジア、ラテンアメリカで発生した洪水もその一例で、家屋や農作物に大きな被害をもたらしました。「気候変動に関する政府間パネル(IPCC)」によれば、灌漑設備を持たず雨水に依存する農業をしているアフリカの地域では、干ばつにより農作物の生産量が2020年までに半減するとみられています。アフリカの農業の9割以上はこのような雨水依存型であることから、深刻な影響が予想されます。

穀物価格高騰

インドおよび中国などにおける食糧需要の増加、そしてバイオ燃料生産のための穀物需要の増加から、穀物価格が高騰しています。家計に占める食費の割合が50%を超える世界の最貧困層にとっては、さらなる食費の増加は大打撃です。さらに、穀物価格の高騰はWFPの事業もひっ迫しています。過去5年間で、WFPが小麦、米、とうもろこしといった基本的な食糧を調達するのにかかったコストは50%増となり、また海運輸送費も約50%増加しています。同じ額の支援しか集まらなければ支援対象者数を削減せざるを得なくなるかもしれないのです。

世界全体における食糧支援量の減少

さらに、世界全体における食糧支援量（WFPやその他の組織による支援量の合計）は年々減少しており、去年はこの34年で最も低い値を記録しました。

学校給食

このような状況下、WFPは飢餓問題を根本から解決していきたいと考えます。学校給食プログラムはそのために有効な手段の一つです。代表的な給食メニューの1つ、とうもろこしと大豆の粉でつくったお粥はコップ1杯約12円で提供することができます。このお粥はビタミン・ミネラルが豊富に含まれており、とても栄養価の高いものです。学校で給食が出ることで、子どもたちは学校に来るようになります。体も強くなり、授業にも集中できるようになります。

1日1杯のお粥が子どもの人生を大きく変える

世界では未だに5900万人の子どもたちが空腹の状態で学校に通っています。十分な食事をしていない子どもたちは空腹のあまり、学習することができません。子どもたちは能力を伸ばす機会を損ない、これは地域社会や国の経済にとっても損失となります。

WFPは「5900万人の子どもが、一日少なくともコップ一杯のお粥を食べられるようにすること」を今後の目標とします。この目標を達成するためには1年で、約1400億円が必要です。

日本社会からの支援

日本政府はWFPにとって最大拠出国の1つです。日本政府からはODAの予算が減少する中で、過去10年間でおよそ1500億円の拠出金をいただきました。また日本の企業や団体、個人の方たちからも募金やその他さまざまな支援をいただいており、心より感謝しています。これからも飢えに苦しむ人々とWFPに対して一層のご支援をお願いします。

報告：「地球のハラペコを救え。」キャンペーン

10月16日の「世界食糧デー」を記念し、WFPおよび国連WFP協会は、企業や著名人の方たちと合同で、「地球のハラペコを救え。」キャンペーンを正式に立ち上げ、広く参加を呼びかけることにしました。10月10日にはキャンペーン発表会が開かれ、運動に賛同しすでに活動を実施している企業から活動実践例の発表がありました。また、知花くららさんとシーランWFP事務局長から応援メッセージが送られました。

「地球のハラペコを救え。」キャンペーンとは？

「地球のハラペコを救え。」キャンペーンは、世界の飢餓問題について世の中の人々に関心を持ってもらい、行動を呼びかけるという運動です。キャンペーンのシンボルマーク（右上参照）は、地球の周りを鉛筆とフォークが囲んでいるデザイン。これには、地球上のすべての人々、特に子どもが、しっかりと食べ、教育を受けられるように、との願いが込められています。キャンペーンでは、趣旨に賛同する企業や団体に、社会貢献活動や広報・マーケティング活動などにおいてこのキャッチフレーズとシンボルマークを使っていただき、多くの人々がこのシンボルマークを目にする機会を作ることにより、飢餓に対する認識を高めることを狙っています。

発表会の内容

この日の発表会は、企業向けに企画されたものでした。まず、このシンボルマークを制作した株式会社電通から、マーク作成に込めた想いについて説明があり、続けて、すでにシンボルマークを使用している企業

ジョゼット・シーランWFP事務局長と知花くららさん

から、それぞれの活用例が発表されました。ベネトンジャパン株式会社は、シンボルマークを掲載したWFPの学校給食プログラムについてのパンフレット作成に協力し、店頭などで配布しています。株式会社ベースボール・マガジン社は、同社が後援するアスリート記録会において看板、バナー、ゼッケンにマークを使用しています。キーコーヒー株式会社はポイントキャンペーンでマークを使用しています。

その後、WFPの活動を応援する2006 ミス・ユニバース世界大会第二位の知花くららさん、そしてジョゼット・シーランWFP事務局長よりキャンペーンへの応援メッセージが送られました。知花さんはご自身のブログにもキャンペーンの応援の言葉をつづって下さいました。知花さんのブログはこちら:
http://chibanakurara.arekao.jp/
(10月10日の日記をご覧下さい。)

今後のキャンペーン展開について

現在、一般個人の方がシンボルマークをダウンロードできるような専用ホームページ立ち上げを企画しています。今後もメールニュースなどを通じて、本キャンペーンに関するニュースを皆様にお知らせいたします。

マーク入りのゼッケン(アスリート記録会)

日本ケンタッキー・フライド・チキン、「世界飢餓救済週間」でWFPを支援

いま、全国のケンタッキー・フライド・チキン(以下KFC)とピザハットでチェーン店を挙げての募金キャンペーン「世界飢餓救済週間」が行われています。

世界飢餓救済週間
キャンペーンチラシ

この「世界飢餓救済週間」は、KFCやピザハットなど、全世界で約35,000店を展開するレストランチェーン「ヤム・ブランズ」が、世界の飢餓と貧困の撲滅に貢献するためにWFPを支援するというものです。

日本でKFCとピザハットを展開している、日本ケンタッキー・フライド・チキン株式会社もこれに参加しています。

日本でのキャンペーン期間は10月14日(日)から12月16日(日)までの約2ヵ月です。その間、全国のKFCとピザハット店舗に募金箱が設置されます。他にも、KFCの店頭でもらえるキャンペーンチラシのクーポンを利用すると、売り上げの一部がWFPに寄付されるなど、WFPを支援するさまざまな方法が用意されています。

期間中に集められた募金はすべてWFPに寄付され、開発途上国における食糧支援に使用されます。

詳細は、特設ホームページ
http://japan.kfc.co.jp/wfp/へ。

私たちのWFP支援　日頃WFPをご支援いただいている企業・団体の取り組みをご紹介します

日清製粉グループ
～食の担い手としてできること～

日清製粉グループ（国連WFP協会評議員）は、総合食品企業です。製粉事業を起点に、「製粉」「加工食品」「酵母・バイオ」「健康食品」などの幅広い分野で事業を展開しています。

世界食糧デーの企画

WFP支援のはじまりは？

日清製粉グループは、小麦を取り扱う食品企業としてWFPの「飢餓と貧困の撲滅を使命とする」という基本姿勢に賛同し、2005年に国連WFP協会の評議員になりました。そして2006年10月にグループとしてWFP支援のキックオフをきっかけとして、いくつもの具体的な活動を展開してきました。同年12月にWFP歳末募金活動を行った際は、数十名の社員がボランティアとして活動に参加し、積極的に社員に寄付を呼びかけました。

チャリティーイベント「Walk the World」に参加

最近の支援活動

支援活動の推進に当たっては、社員の自主的な参加を促しその活動を会社が後押しすることで、社員一人ひとりの意識を高め、継続的な活動につなげていくというのが日清製粉グループの考えです。グループ内に立ち上げたWFP推進組織事務局には18名のＷＦＰ推進メンバーがおり、社内にWFPへの支援活動を根付かせる取り組みを行っています。

「もったいない 宣言」のWFPメニューを食べる村上一平代表取締役社長

今年10月には、北海道の女性社員が提案した「食のもったいない宣言」というアイディアが採用され、全国に展開するまでになりました。この「食のもったいない宣言」は、１０月１６日（世界食糧デー）に合わせ、食の大切さ、又飢餓に苦しむ人々のことを考えることを目的に発案されたものです。社員とその家族が任意で署名。提出した「食のもったいない宣言カード」を社内で集計・ポイント換算し、会社がこれに上乗せ（マッチング・ギフト）するかたちで、WFPに寄付が寄せられます。また本社食堂では一食につき食券１枚分（20円）がWFPに寄付される「WFPランチメニュー」が登場したほか、小盛・中盛・大盛からライスの量が選べる「食べ残しゼロ」定食も用意されました。「WFPランチメニュー」は3日で1500食の売り上げを目標としていましたが、大変好評で、2日間で目標が達成されました。

WFP推進メンバーである日清製粉グループ本社知的財産部の中沢吉美さんは「単なる募金活動だけではなくて、食に関わる企業・社員として、今後も継続してWFP支援活動を行っていきたいと思っている。」と話されていました。

今後の予定

タカシマヤ チャリティー サンタ キャンペーン

全国20店舗のタカシマヤで「チャリティー サンタ」が発売されます。このサンタは、「スノーマン」で有名な絵本作家 レイモンド・ブリッグス氏のキャラクターです。サンタの売り上げ（定価300円)の一部が、WFPに寄付されます。

「チャリティー サンタ」は、1994年より毎年タカシマヤのクリスマスのチャリティー企画として限定発売され、コレクターズ・アイテムとしても大人気の人形です。今年のサンタのデザインは銀色のクマを抱えた「ラブベアとサンタさん」（300円・高さ約5.5cm）。クリスマスのオーナメントとしても活用できる愛らしいデザインです。

また、発売が開始される11月23日（金・祝）には、日本橋タカシマヤで、チャリティーへの賛同を呼びかけるコンサートが開催されます。日頃から国連WFP協会の顧問として、WFPの活動をサポートしてくださっている音楽評論家・作詞家の湯川れい子さん率いるゴスペルグループ、VOJA（Voice Of Japan）と東京女声合唱団から約20名の有志が出演する予定です。新宿店でも湯川れい子さん、toi teens!?（トイティーンズ）を迎えてゴスペルのひと時をお楽しみいただけます。（詳細は下記を参照ください）

クリスマスの雰囲気あふれる会場で、心温まるゴスペルの歌声を楽しみながら、クリスマスシーズンならではのチャリティー活動にご参加下さい。

＜チャリティーサンタ販売＞

期間：2007年11月23日（金・祝）～
場所：タカシマヤ 全国 20店舗
価格：サンタ人形300円（うち、約100円をWFPに寄付）
売り場：各店舗2～3カ所に設置。主に1Fキャンペーン展開売り場、
　　及びおもちゃ売り場等

今年のチャリティーサンタ

＜関連イベント＞

横浜店　WFP学生ボランティアによるデモンストレーション
　日時：2007年11月23日（金・祝）10:00～13:00
　場所：1F正面入り口

日本橋店 チャリティーゴスペルコンサート
　日時：2007年11月23日（金・祝）13:00～、15:00~の2回
　場所：1F正面ホール 特設ステージ
　湯川れい子さん、VOJA（Voice Of Japan）と東京女声合唱団から約20名出演
　チャリティーサンタおよびCD「きずな」販売コーナー設置（山野楽器担当）

新宿店　チャリティーゴスペルコンサート
　日時：2007年12月1日（土）14:00～、16:00~の2回
　湯川れい子さん、toi teens!?（トイティーンズ）約20名出演
　チャリティーサンタおよびCD「きずな」販売コーナー設置

発行：　WFP 国連世界食糧計画 日本事務所
特定非営利活動法人　国連WFP協会